

雜 錄

印度支那に於ける採炭事業 (Genie Civil. Samedi 8. Decembre 1928 par v. Charrin.) 印度支那は最近數年來商業工業兩方面に一大飛躍を爲せり其發展の一因を爲すものは地下に埋藏する多量多様の原料なり、但し印度支那の各州が悉く然るに非らず(La Cochinchine 及び Le Cambodge に於ける廣漠なる平野には有利鑛床の存在は微々たるものなり次に L'Annam 及び Le Laos に至つては尙不明にして若干の試掘を試みたるのみなり之に反し Conkin 州は最も優秀なる鑛石の産地なり。

實際に於て數世紀來支那人は Conkin 州より石炭各種鑛石並に少量の金をも採掘し居れり、今日採掘しつつある各地の鑛山は主として歐洲人の既往に於ける功績に依り發見されたるものなり、爾來鑛山業は一大進歩を爲し 1927 年に於ては 322 鑛區(内 91 鑛區は燃料に關するもの)に達せり勿論是等の全鑛區が悉く活躍しつつあるに非らざるも下記第 1 表は近年の産出量を示すものにして其數字は 150 萬噸に達せり、吾人は茲に幾多の困難あるを知るも尙此産出額は一層増大の可能性あることを知る。

第 1 表 印度支那に於ける石炭の年産額

炭 鑛 會 社 名	炭 質	産出噸	
		1926年	1927年
Société Française des Charbonnages du Conkin.....	無 燐 炭	855,000	1,020,000
Société des Anthracites du Conkin	"	142,247	136,960
Société des Charbonnges de Donz-Crieu	"	138,578	149,822
Société du Domaine de Kébao	"	32,781	45,576
Société J. Panuier et Cie.....	"	29,235	27,190
Société française des Charbonnages d'Along et Dong Danz	"	24,139	25,280
Société Darrieux et Cie	"	8,295	8,000
Société des Anthracites de Yen-Lap	"	3,597	—
Socété des Charbonnages de Bi-Cho (Bach-Chai Buoi).....	"	—	350
Sen et Cie.....	"	7,360	—
Société des Charbonnages de Nonz-Son (Bangue de l'Indchine)	"	200	—
Société des Charbonnages de Vinh-Phuoc	"	3,000	5,000
Société des Charbonnages de Ninh-Binh	石 炭	11,920	8,709
Société des Charbonnages de Phan-Mé.....	"	26,109	29,943
Société des Charbonnages de Cuyen-Quang.....	褐 炭	3,225	4,054
合 計		1,285,656	1,460,884

石炭に豊饒なる炭坑は各鑛區に集中す就中 Hongay-Dong-Crien に於ける無燐炭鑛區に於ける採炭額は 1927 年全産額の 95% 以上に達す其他は微々たるものなるも Phu-Nho-Quan 鑛區のみは特記に價

和呈三月号新也紀雜録中 和の投稿に係り印紙支
 那以概けを撰見可業也 題有記号中 和の不注意
 口依り横文字の頭文字 T 色 乙と記し候者 地名厚社
 名等以若干誤り色生に原の字色 齋尼務留可能也此依
 御自致知から所行の齊長帝新く 和

例合は原稿中 Tonkein 也其は Tonkein (ニキ) 也

Hungary-Doug-Torieu 也其は Hungary-Doug-Torieu (ヒル
 一) には五五五稿中の T の字は T に訂正可なり 烟録也

四月十七日

佐藤 濱田文藏

日本紀紀帳の事

28

す今次に各礦區に於ける採炭狀況を列記すれば

I. Hongay-Dong-Crien 無焰炭炭田

本礦床は海岸より Kébao 島の方向を取り深く陸地内方へ 150 軒に及ぶ廣大の地面を被ふものにして其東部は最有望なり此炭田に於ける大多數の採掘は今日何れも地表面に近き地炭床に就てのみ行はれつゝあるを以て、尙夫以下の下層に於ける埋藏量は全然不明なり故に目下創設されあるものは 50 鑛區なるも他に幾多の試掘點を残存するものゝ如し本炭田内に於ける炭坑の近情況次の如し。

Société française des Charbonnages du Conkin

此會社は Hongay 炭田の内 22,000 ヘクタールを所有し昨 1922 年の産額は 1,000,000 噸を突破し全印度支那に於ける産炭額の 2/3 に達せり採炭法は二様に行ひ其一は露頭採掘法にして主なるものは Hatou 及び Campha の露頭坑なり就中 Campha の露頭坑は炭層の厚さ 100 m を超ゆる雄大のものにして世界に於けるの炭層の例外なるべし第二は坑内採掘にして永年間餘り順調の産出を見ざりしも現在に於ては Monz-Duong 及び Ngha-Hai の兩主坑の採掘高は 250,000 噸を超ゆるに至れり。

大船の近接し得べき港は Hongay 及び Campha の兩港にして産出炭は其處に集中して適當の處理を爲し其粉炭の一部は日本炭を配合して練炭と爲し點火を容易ならしむ又本礦區の中央部には發電所を創設したる結果多大の便宜を生じ各採掘坑に於ける無用の設備を廢止し且石炭の産額を増加せしめ得たり。

埋藏炭量は現在知られたるもの丈にて既に著大の量なるを以て今日以降採炭量は益々増加し行くものと假定するも本事業の先途は尙永年保證さる。

Société des Anthracites du Conkin

本會社は 5—6 年來元の Mao-Khé 及び Crang-Bach なる兩近接炭坑を併合せり使用鑛區は 2,000 ヘクタールを出でず現在知られたる鑛床は 12 炭床より成り全層の厚さ合せて 20~25m なるも尙夫以下に巨大の炭層を残存す創設以來特に 40 年約 1,000,000 噸の石炭を採掘せり本社は Mine de Blangy 會社の保護の下に成立し逐年産炭量を増加し來り昨 1927 年に於ては 150,000 噸に達せり本年は恐らく夫以上の生産を見るに至るべし。

Société des Charbonnages du Dong-Crieu

本會社は多數の鑛區を所有す夫等は凡て Dong-Trieu の連山中に存在の使用鑛區の全面積は 20,000 ヘクタールを超ゆ鑛床は幾多の點に發見され全部にて 10 層より成り採掘し得べき炭層の厚さ合計 35~40m なり埋藏炭量は悠に幾百萬噸に昇る設備は廣大なる割合に事業は創設以來長年間餘り順調ならず年産額は尙 150,000 噸を出でず彼の大鑛床を有し加之相當大仕掛の事業の産額としては稍不釣合なり。

Société du Domaine de Kébao

本會社は Kébao 島全體より成る所謂 Kébao 鑛區にして約 20,000 ヘクタールを有し其半は悉く石炭床なり往時支那人が始めて石炭の發掘を爲したる地は正に本島なり、何となれば本鑛區内には表面開掘の跡至る處に存在す 1905 年頃 Société française des Mine de Kébao は此鑛區の所有權を攫得し鑿井、鐵道敷設及築港等の大々的設備を施し事業に着手したるも該社は終に破産せり其後約 20 年間は支那人の下請に依り隨處に採掘變轉し僅かに少量の産出を持続し來れり夫が爲め露頭鑛床は著しく荒損せり本會社が事業の再起を企てたる時は夫等の原因に依り多大なる事業の困難を來たせり斯の如く技術的に大缺陷あるのみならず産出炭質は不良にして是を商品として販賣する爲めには少からざる勞作を要する等の爲め大に困難を感じつつある。

Société française des Charbonnages de Dong-Daneg et d'Along

本會社は Courbet 港の西に分立せし前の Deng-Dang と Dei-Dhan の兩社が最近合併して成立せるものなり此地方には本社の右に出づるものなし然るに近くの Hongay には 3 又は 4 の炭脈ある事は既に永年來知られありて其内或 2、3 は試験せられたるも概ね炭層薄く且夫等の層は何れも浸水線以下に存在する事は事業を困難ならしむる最大原因なり故に井戸式採掘法を以てするの外なし加之此國に於て尙此式の方法は殆んど用ひられたる事なき爲め特に不便なり。

Société J. Pannier et Cie

本會社は前記の Dong-Dang 鑛山の直接隣地に存在し Dong-Crieu 連山中の Chacha 鑛區を所有す鑛床の廣大なる割合に産額は僅少なり其最大額は 1927 年の Port-Courbet 地方より生じたる 27,000 噸なり。

Société des Charbonnages de Yên-Lap

本會社は René 鑛區を採掘しあるものにして 1916~1926 年の間年産額は 12,000~24,000 噸の間を移動す鑛主の變動屢々なりし爲め 1926 年に於て一時事業中止の状態に陥れり然れ共本炭層は例令一層なりとするも之を全然採掘し終る事は尙容易の事に非らず其他にも鑛床發見の希望を有するを以て全然絶望にはあらざるなり。

Société des Charbonnages de Bi-Cho

本會社も 1926 年前約 10 年間採掘を中止し居れり以前年産額 10,000~15,000 噸なりしも現在にては殆んど零に落下せり。

Mine Sen et Cie

本會社は Dong-Crieu 山脈の南端なる山腹に於ける Printemp 鑛區に存在す Haiphong の船持 Sen 氏が 1923 年來採掘を試みたるに始まる石炭層は多少採掘の跡ある斷片的の散在床を有するのみなるが如く可なり困難なる採掘に依り約 15,000 噸を産出したる後作業を中止せり。

Mine de l'Île aux Buissons

本鑛山會社は今日完全に廢業の状態にあるも往時は多大の資源たりしものなり會て Buisson 島の殆

んど全部を包含する Paul 礦區及び夫に隣接し多數の露頭石炭脈を有する Hongay 礦區を目的として 1916~1917 年に於て多大の努力を試みたる結果本礦脈は採掘不可能なる事を證明されたり他にも幾多の試験を爲し特に隣接の Hongay 地方に於て試みたる結果石炭床は至る處に發見されたるも何れも利益を擧げ得るに不足なる量に過ぎず。

II. Phu-Nho-Quan 石炭炭田

此名稱の下に知られたる炭田は Ninh-Binh より Cho-Bo 迄擴大せる廣大の地方なり炭床として明瞭なるものは二部分にして何れも有望のものなり其南部の分は既に 15 年來採掘されあるものにして炭層は極めて不規則なる巖狀炭床を爲し其厚は 0.5~10 m なり炭質は全然特種のものにして多量の硫黄分を含み完全に粉炭化す性質は一般の褐炭に似たる點多く詳細なる研究の結果此石炭は元純然たる褐炭が地質の自然變化に依り半黒炭化したものなり。

最近 Cho-Bo 會社の努力に依り前者に似たる他の一層を發見したるも距離遠く運搬の便極端に困難なる爲め現在の處利用し難きも是等二點の炭床は確實なるを以て事業を繼續し行く時は埋藏量は悠に 10 億噸を超ゆべし。

南部の内約 10 礦區は既に採掘されあつて夫等の大部分は Société des Charbonnages de Ninh-Binh の所有なり。

Société des Charbonnages de Ninh-Binh

本社の有する礦區中確實に知られたる部分は凡そ 1,000 ヘクタール埋藏量は數百萬噸なり然れ共其他の一般無焰炭坑の如く採掘容易ならず多大の支障を有す即ち石炭は多量の硫黄分を含有する爲め自然發火の原因多く坑内には絶へず火災の恐多き事及び現礦床は悉く水浸線以下にある爲湧水饒多にして其排泄に困難なると同時に其水の化學的成分上諸機械の腐蝕大にして破損の原因を爲す等之なり。

III. Phan-Mé 石炭炭田

本炭田は Chai-Nguyen 市より北方に擴大し居るものにして未だ確實に測知せられざるも其地面は餘り廣大ならず石炭の産額は殆んど Phu-Nho-Quan に等しきも硫黄分は夫より少なく骸炭製造用として適性を有す。

Société de Charbonnages et de Mines métallique

本會社は印度支那に於て有名なる會社にして此炭田中採掘しある二の礦床を有し年産額約 30,000 噸を生ず。

IV. L' Annam 無焰炭田

1925 年に於て印度支那銀行は Charbonnages Nong-Son 炭坑の事業を再起し 1926 年に至り放棄せり、此無焰炭田は既に往昔より知られたるものにして會て Société des Mines de Courane に依つて採掘されありたる殘部なり此地は海との距離大なる事及び石炭の性質中等なる事等の爲め事業は常に困難の状態にあるものなり。

1924年より Sara 礦區に於て Les Charbonnages de Vinh-Phuoc が新採掘を開始し爾來繼續して 1927年に於ける産額は 5,000 噸に達せり。

V. 褐炭の採掘

1927年の産出統計は褐炭に就ては Cuyen-Quang 鑛山の採掘量 4,000 噸を示すのみなり此褐炭鑛床は疑もなく第三紀層にして鑛床の大部分は既に採掘され他の部分は坑内火災に罹り放棄されたるものを 1922年頃事業を再起したるものなり。

多數の試掘特權に最近 Yen-Bay 鑛床の採掘に於ては全然失敗に終れり之は地理上より見るも極めて不利の地方にして尙ほ炭質の粗惡なる點等を彼是考慮すれば失敗は寧ろ當然なり。

La Mine de Dong-Giao 褐炭の層厚 10 m の上部を覆ふ處の地層の深さ約 30 m にして茲に廣大なる開掘採炭法を行ふを以て特徴とす、此他是に類する炭床にして炭質良好且豐饒なる埋藏量の褐炭鑛床を存するも多くの鑛山會社が餘りに輕視し居るを遺憾とす。

Dong-Ho の小採掘地 本坑は眞中に無焰炭床を包有する第三紀層にして 10~12 m の厚さに及ぶ瀝青片岩の底に存在する優良なる褐炭の一層なり鑛床不完全なりし爲め孤立の状態に存在する一床なるが如し此上層に於ける瀝青片岩の利用に對する研究も亦事業の一目的なるべし。

(濱田文藏)

鐵鋼の支那貿易趨勢 (經濟資料第 14 卷第 12 號昭和 3 年 12 月 1 日發行支那貿易の趨勢下編(一))

第 2 章各説第 4 節 p41)

1900年前に於ける 5 金及鑛石の輸入は第 1 表にも示す如く各年數百萬海關兩を算へ相當重要なるものはあつたが其増加は特に際立ちたるものはなかつたのであつた。之は未だ同國の金屬工業が幼稚な當然の結果であつた。然し 1900 年に入つてからの輸入は漸く激増を來し(1905年に銅の著しい輸入増加があつたが之は全くアブルノルマルなものであつた) 1910年には1900年の 9,178,452 海關兩に比して 2 倍以上に達した。尙 1920 年前後からは其の増加更に甚しく遂に 6,000 萬海關兩を超ゆるに至つた。爾來 1924 年の 67,770,134 海關兩を最高とし 4,000 數百萬乃至 6,000 萬海關兩の間を上下して居り最近 2 年は綿製品、砂糖、棉花、米及粃、石油等に次ぐ重要輸入品となつてゐる。

次に 5 金屬及鑛石中に擧げらるゝものはアルミニウム、減摩合金、眞鍮、銅、各種箔類、鐵及鋼、鉛、ニツケル、錫、白銅、亞鉛、其他及び砂鑛等であるが之等の中最も重要なものは鐵及鋼であり之に次では銅、錫、鉛等が重要な輸入品である。尙ほ鐵力は 1925 年の海關統計項目の改正によつて鐵及鋼の中に包含せらるゝ様になつたが、從來は別個に取扱はれて居り、又其の輸入額は 5 金及び鑛石中極めて重要なものの中にある關係から前記の鐵及鋼、銅並に此鐵力の三者について今少しく詳細に亘つて見る事にしやう(銅は略)先づ其の第一歩として鐵及鋼、銅並に鐵力の輸入が各種 5 金及鑛石中に占むる位置を示ばせ第 1 表の如くである。

第 1 表

五金及礦石輸入額表 (單位海關兩)

年次	純輸入額	銅	鐵及鋼	錫力	其他
1870	3,996,279	341,576	890,640	61,813	2,702,250
1875	4,226,099	213,090	1,071,337	59,989	2,881,686
1880	4,079,196	248,314	1,617,501	52,216	2,161,165
1885	5,503,416	660,801	2,114,703	82,366	2,645,546
1890	6,872,084	516,711	2,369,302	76,584	3,909,487
1895	7,189,409	470,621	2,668,829	244,095	3,805,864
1900	9,178,452	792,147	4,218,967	290,627	3,876,711
1905	45,428,998	31,185,779	7,997,191	1,021,564	5,224,464
1910	18,907,802	1,288,907	11,811,829	1,265,685	4,541,381
1915	18,455,504	1,344,346	9,850,783	3,140,573	4,119,802
1920	61,565,157	11,413,966	36,899,787	5,410,535	7,840,869
1921	60,078,039	13,376,087	33,189,343	5,534,965	7,977,644
1922	49,927,884	14,279,359	26,912,268	2,340,178	6,396,079
1923	44,938,111	6,818,708	25,088,681	4,647,328	8,383,394
1924	67,770,134	14,330,716	35,504,394	8,458,701	9,476,333
1925	43,160,471	3,942,311	22,917,935	5,535,176	10,765,049
1926	52,346,995	3,691,339	27,905,763	5,855,150	14,894,743

1. 銅省略

2. 鐵及鋼 當初鐵及鋼の輸入は可成の少額に止つてゐたが其の輸入趨勢は常に増加の歩を辿り1910年には遂に 1,000 萬海關兩を超ゆるに至つた。1915年は1910年に比して多少の減少があつたが1920年には 36,897,787 海關兩の巨額に達して鐵及鋼輸入貿易の最大記録を止めたのである。爾來多少の減少はあり又時には此の最大記録に比して 1,000 數百萬海關兩の減少を來たしてゐるものもあるが尙 2,000 數百萬海關兩から 3,000 數百萬關海兩の間を上下し、支那輸入貿易上重要な位置を占めてゐる。

今其種類を見ると其の數は極めて多く中には個々のものに就きて研究するも餘り効果のないものもあり又全部に亘る事は到底許さない所であるから數多き中より更に重要な、條、軌、片、及板の三者をとり其の輸入額取引國、並に輸入港につき見る事にしよう。

(イ) 條鋼。條鋼の輸入は 1870 年の舊時に於て既に各鐵及鋼の純輸入額 890,640 海關兩に對して 169,642 海關兩を占め其位置は極めて重要なものがあつた。然し其後の輸入額は餘り増加せず 1910年に入りて 100 萬海關兩を超えて以來漸く顯著な増加の跡を印し初めたのである。即ち 10 年後の1920年には 7,793,465 海關兩に達し、同品輸入貿易の最高潮時を現出するに至つた。

尙ほ 1921 年以後は 1920 年の記録に比して大いに劣るものはあるが、然かも依然として鐵鋼類中では第一を占むる重要輸入品である。

其の取引國は第 2 表五國中では英米が主なもので日本が之に次いで居るが、其の他諸國中白耳義は其の取引多く 1922 年には 839,560 海關兩の取引あり英に次いで第二位にある。尙ほ白耳義は翌1923

年以降は更に其の取引額増加し各國中首位にある。

因に白耳義の取引額は 1923 年 1,843,030 海關兩、1924 年 3,869,879 海關兩、1925 年 1,029,181 海關兩、1926 年 2,138,745 海關兩である。

第 2 表 鐵條輸入取引國別價額表 (單位海關兩)

年次	總輸入額	再輸出額	純輸入額	上 日本 下 英國	上 北米合衆國 下 獨逸	上 佛國 下 其他
1905	637,968	21,924	626,044	628 310,875	3,902 21,630	8,413 292,530
1910	1,088,399	12,651	1,075,748	40,188 426,638	20,367 193,884	881 406,411
1915	1,429,949	232,875	1,207,074	163,059 396,682	769,781 0	1,841 98,536
1920	7,926,657	133,192	7,793,465	1,423,354 1,879,716	3,987,694 0	179,230 456,663
1921	4,323,411	99,159	4,224,252	883,411 1,256,660	1,407,460 183,802	18,479 573,599
1922	3,790,252	35,673	3,754,579	443,140 1,273,145	741,312 297,820	11,165 1,023,670
1923	4,745,706	59,865	4,685,841	475,846 1,243,217	600,267 250,449	18,515 2,157,412
1924	6,859,806	46,437	6,813,369	543,720 1,323,488	142,635 509,523	77,836 4,262,604
1925	2,791,748	21,271	2,770,477	421,543 817,886	23,006 58,035	38,160 1,233,148
1926	4,643,236	16,171	4,627,065	478,422 542,098	16,039 509,402	135,857 2,961,418

尙ほ輸入港別に見たる取引額は第 3 表に示す通り。

第 3 表 鐵條輸入港別價額表 (單位海關兩)

年次	總輸入額	再輸入額	純輸出額	上 大連 中 天津 下 其他北部支那	上 漢口 中 上海 下 其他中部支那	上 廣東 下 其他南部支那
1905	675,732	0	675,732	— 94,157 71,028	52,949 243,646 53,033	61,018 99,901
1910	1,156,499	0	1,156,499	43,598 147,218 260,335	241,155 143,894 62,952	99,740 157,607
1915	1,161,315	80	1,161,235	181,380 117,200 141,763	160,713 230,372 135,271	60,723 133,893
1920	8,164,617	153,090	8,011,527	801,818 1,288,962 471,783	367,102 4,388,925 318,524	234,700 292,803
1921	4,362,700	10,737	4,351,963	1,116,794 751,812 548,321	474,598 459,702 220,341	239,218 551,914
1922	4,081,762	0	4,081,762	826,895 644,790 429,178	255,619 668,746 166,055	453,925 636,554

1923	4,942,483	0	4,942,483	936,960 859,413 593,546	404,495 1,077,764 125,948	522,105 422,252
1924	7,046,749	7,822	7,038,927	1,583,261 1,036,675 576,646	640,993 2,091,315 158,873	400,943 558,043
1925	2,874,984	7,630	2,867,354	921,751 320,849 469,725	215,412 57,228 137,795	222,457 529,767
1926	4,690,796	0	4,690,796	1,440,951 533,044 403,603	391,956 941,100 117,932	320,786 541,424

備考 「其の他諸港」として1905年度には535海關兩又1910年度には889海關兩が計上せられて居るが、此等は便宜上夫々「其の他南部支那」の欄に合計計上す。

(ロ) 軌 鐵軌は1902年までは鐵鋼中「其の他」の項目中に包含せられて居た程で、其輸入額は全く微々たるものに過ぎなかつた。尙ほ當該項目の設けらるゝに至つた 1903 年に於ても其純輸入は僅かに16,457 海關兩であつたが、爾來同國の鐵道建設漸く多きを致すと共に鐵軌の輸入も増加して、1910年には遂に 1,989,670 海關兩に達した。然し其の最も殷盛を極めたのは 1921 年の 7,295,942 海關兩で最近は 200 數十萬海關兩の處を往來してゐる。

取引國は北米合衆國を最とし日英之に次であるが、其の他諸國中露西亞及び白耳義の 2 國の取引が相當あつた時もある。

輸入港は大連が大港中に首位にあるが、兎に角鐵軌の輸入は鐵道建設地に近きものを經由するから之が順位は年によつて著しく異なつてゐる。尙ほ其他諸港中第 4 表に示す年次に於て比較的多額の輸入を見たのは 1910 年膠州、1920 年綏芬河、1921 年奏皇島、南京、1925 年牛莊等であつた。

(ハ) 片及板 海關統計中片及板は 1887 年の項目改正によつて初めて計上せらるゝ様になつたが當時の輸入額は僅かに 90,804 海關兩を算ふるに過ぎなかつた。13 年後の 1900 年には約 8 倍して 748,155 海關兩に達したが、尙ほ 1910 年を過ぐる頃までは 100 萬海關兩に達せざる状態にあつた。然るに 1920 年には 4,622,854 海關兩の輸入で、同品輸入の最高記録を残すに至つた。又近年は此の 1920 年の輸入に比して著しい減少を示し、毎年 200 萬海關兩乃至 300 萬海關兩の所であるが、鐵及び鋼中では重要な輸入品に屬してゐる。

取引國に付ては特に取立てゝ云ふべき程のものもないが、大體に於て英國が有力なものと云ふ事が出来る。然るに白耳義は近年其の取引著しく増加し、1923年、1924年の兩度は英國に次いでゐたが、最近 2 年は全く英國を凌駕する様になつた。因に白耳義の取引額は 1923 年 513,333、1924年 962,693、1925年 841,572、1926年 1,155,203 海關兩である。

輸入港は大體に於て上海を第一とし、大連、天津の兩港が之に次いでゐるが、其の他の諸港に至つては極めて少額の輸入を見てゐるに過ぎない事は第 5 表の如くである。

2. 鋳力、鋳力の輸入は 1870 年に僅かに 61,813 海關兩ありたるに過ぎず、爾來 1900 年頃までは依然として不振の状態を繼續し居た。然るに 1905年 1~1,021,564 に海關兩に達して以來漸く其輸入

第 4 表

年次	鐵軌輸入取引國別價額				鐵軌輸入港別價額				上 廣 東 下 其 他 南 部 支 那	
	上 日 本	下 英 國	上 北 米 合 衆 國 獨 逸	上 佛 蘭 西 其 他	總 入 額	再 輸 出 額	純 入 額	上 大 連 中 天 津 下 其 他 北 部 支 那		上 漢 口 中 上 海 下 其 他 中 部 支 那
1905	0	513,975	10,360 3,050	18,128 13,650	602,044	0	603,044	31,778 15,917	554,070 0	0 279
1910	697,688 90,100		233,604 528,822	4,202 461,965	1,987,983	0	1,987,983	707,938 10,662 685,253	239,664 897 360,093	254 83,222
1915	71,327 98,624		369,692 0	0 84,115	572,711	123,905	448,806	66,108 366,721 100,063	0 57 37,021	0 2,741
1920	222,896 337,635		760,065 5,035	0 744,112	2,408,309	217,356	2,190,953	148,132 619,410 813,414	737,328 0 79,858	0 10,177
1921	110,102 109,801		5,381,106 56,306	119,520 1,541,078	7,252,599	4,301	7,248,298	1,783,332 525,553 3,419,603	0 203,878 1,299,565	184 20,484
1922	165,580 554,046		1,265,482 163,315	250,192 779,958	3,361,651	5,888	3,355,763	736,787 1,394,479 631,432	0 25,382 227,428	33,380 309,763
1923	220,440 208,671		924,366 32,991	10,649 178,837	1,556,844	8,743	1,518,101	898,429 92,482 290,171	19,225 184,598 6,607	22,302 43,030
1924	252,597 143,672		880,098 175,680	455,461 1,102,412	3,009,876	46	3,009,830	1,766,680 106,668 536,833	154,518 203,764 147,631	80,298 13,481
1925	357,191 216,485		775,471 44,071	813,870 323,753	2,530,932	0	2,530,932	1,197,552 88,241 1,000,033	29,118 82,095 75,619	98 58,176
1926	453,200 31,034		1,321,689 21,646	26,315 884,563	2,738,966	0	2,738,966	1,777,833 240,030 506,483	11,426 88,681 87,882	0 26,581

備考 1905年度には「其の他諸港」として279海關兩が計上せられてゐるが、同額は便宜上「其の他南部支那」の欄に合計計上す。

第 5 表

鐵片及鐵板輸入取引國別價額表 (單位海關兩)

年次	鐵片及鐵板輸入取引國別價額表				鐵片及鐵板輸入港別價額表																	
	總入	輸額	再輸出	純入	上日本	下英國	上北米	下獨逸	上佛蘭	下其他	上西	下其他	上北	下其他	上天津	下其他	上漢口	下上海	上其他	下支那	東支那	他支那
1905	503,466	7,981	495,485	23	318,678	25,674	0	159,091	0	513,823	0	513,823	30,136	76,557	49,943	284,530	18,866	19,067	34,724			
1910	724,261	13,426	710,835	46,445	354,470	53,932	25	267,118	2,271	720,603	0	720,603	52,773	61,132	153,236	182,139	14,364	33,153	51,637			
1915	1,240,413	82,592	1,157,821	215,338	669,842	203,897	0	151,266	70	1,166,029	9	1,166,020	276,261	213,972	50,295	341,777	34,690	37,729	55,660			
1920	4,730,416	107,562	4,622,854	1,333,223	1,565,241	1,672,895	15,091	141,214	2,752	4,781,068	56,973	4,724,095	860,887	660,042	183,220	2,641,806	630,89	74,560	86,610			
1921	2,827,229	49,217	2,778,012	466,100	1,452,612	605,179	110,408	12,190	180,740	2,654,008	11,625	2,642,383	469,137	438,387	192,936	877,968	83,252	63,278	112,145			
1922	2,334,481	15,132	2,319,349	260,151	828,998	475,549	245,161	9,878	514,744	2,378,628	0	2,378,628	601,313	506,849	100,161	562,111	40,957	77,899	34,719			
1923	2,147,916	126,637	2,021,279	367,596	923,989	101,705	217,729	504	536,693	2,114,368	6,423	2,105,945	556,347	532,962	106,329	404,833	60,724	103,500	128,614			
1924	3,201,917	12,637	3,189,280	466,499	1,108,103	125,848	414,371	33,252	1,053,844	3,367,949	1,035	3,366,914	759,046	799,337	126,292	1,025,795	53,880	113,177	151,541			
1925	2,149,574	4,826	2,144,748	508,065	473,467	79,729	130,525	1,365	956,423	2,190,551	805	2,189,746	632,800	334,315	91,224	698,738	47,949	54,437	114,692			
1926	2,470,961	26,793	2,444,168	302,234	274,155	88,124	418,989	12,612	1,374,847	2,456,797	0	2,456,797	816,405	461,793	94,996	639,911	37,549	93,024	89,504			

備考 「其他諸港」として1905年度には2,663海關兩、又1910年度には507海關兩が計上せられてゐるが此等は便宜上夫々「其他支那」の欄に合計々上す。

第 6 表

年次	鐵力輸入取引國別價額表				鐵力輸入港別格價額表 (單位海關兩)															
	總入	再出	純入	上日本 下英國	上北米 下衆獨逸	上佛蘭西 下其他	總入	再出	純入	上天津 中上海 下漢口	連津他 支那	上天津 中上海 下漢口	連津他 支那	上天津 中上海 下漢口	連津他 支那	上天津 中上海 下漢口	連津他 支那	上天津 中上海 下漢口	連津他 支那	
1905	1,065,344	43,780	1,021,564	3,933 1,047,787	447 12,972	0 200	1,029,840	0	1,029,840	25,192 75,855	—	264,771 369,279 7,751	—	264,771 369,279 7,751	—	165,414 121,678	—	165,414 121,678	—	165,414 121,678
1910	1,279,440	13,755	1,265,685	455 1,242,301	17,788 9,554	771 8,571	1,269,634	0	1,269,634	42,141 104,622	—	374,141 172,768 179,130	—	374,141 172,768 179,130	—	297,644 97,519	—	297,644 97,519	—	297,644 97,519
1915	3,199,303	58,730	3,140,753	31,188 3,112,734	3,669 0	0 51,762	3,193,690	40,286	3,153,404	146,168 590,740 203,943	—	594,036 585,242 633,196	—	594,036 585,242 633,196	—	216,906 223,459	—	216,906 223,459	—	216,906 223,459
1920	5,556,692	146,157	5,410,535	623,606 2,837,947	2,093,965 0	1,174 0	5,389,040	40,497	5,348,543	369,882 802,434 514,323	—	850,369 1,693,136 627,518	—	850,369 1,693,136 627,518	—	272,742 258,645	—	272,742 258,645	—	272,742 258,645
1921	5,740,314	205,249	5,534,965	121,779 3,409,326	2,177,759 0	830 30,520	5,316,145	25,547	5,290,598	700,682 389,727 292,121	—	506,475 1,777,710 828,434	—	506,475 1,777,710 828,434	—	374,224 447,072	—	374,224 447,072	—	374,224 447,072
1922	2,458,807	118,629	2,340,178	91,172 1,945,147	326,647 16,443	3,966 75,432	2,750,335	45,874	2,704,461	23,634 317,767 248,016	—	635,628 394,818 369,426	—	635,628 394,818 369,426	—	271,646 489,400	—	271,646 489,400	—	271,646 489,400
1923	4,883,560	236,232	4,647,328	24,061 3,591,057	1,220,826 8,738	1,710 37,168	4,797,326	47,992	4,750,334	0 543,115 508,525	—	838,234 1,022,234 1,008,489	—	838,234 1,022,234 1,008,489	—	212,612 666,087	—	212,612 666,087	—	212,612 666,087
1924	8,530,177	71,476	8,458,701	31,533 3,961,239	4,486,779 2,157	3,338 45,131	8,804,906	0	8,804,906	350,755 1,169,978 634,679	—	1,157,321 3,002,169 1,508,609	—	1,157,321 3,002,169 1,508,609	—	325,538 655,857	—	325,538 655,857	—	325,538 655,857
1925	5,678,205	43,029	5,535,176	123,343 3,214,902	2,120,216 2,773	6,529 80,449	5,784,156	42,134	5,742,022	257,183 754,498 660,402	—	947,895 1,295,496 1,117,507	—	947,895 1,295,496 1,117,507	—	197,936 553,239	—	197,936 553,239	—	197,936 553,239
1926	5,884,994	29,844	5,855,150	53,314 2,481,518	3,229,426 12,124	1,433 107,179	6,137,085	0	6,137,085	289,264 510,552 645,919	—	1,109,352 1,752,457 1,175,557	—	1,109,352 1,752,457 1,175,557	—	114,977 639,007	—	114,977 639,007	—	114,977 639,007

備考 1905年度には「其他諸港」として1,421海關兩が計上せられてゐるが同額は便宜上「其の他南部支那」の欄に合計せず。

は著しく、1920年には遂に500萬海關兩を突破し五金及礦石類中極めて重要なものとなつた。尙ほ1922年及1923年の兩度は前年に比して減少はあつたが更に1924年には8,458,701海關兩を算へ同品輸入の最大記録を残して居る。又最近2年は1924年よりも甚だしい減少ではあるが、然かも550萬海關兩以上に達し、五金及び礦石輸入額の11%乃至12%は同品の占むる所である。

其の取引は舊くは英國が殆んど獨占の状態であつたが、1916-7年の頃から北米合衆國の取引は著しく増加し1924年1926年の如きは遂に英國を凌駕する様になつた。此の英米に次いで第三位にある本邦は1920年の623,606海關兩を最高として他は何れも僅少の取引を行なつて居るに過ぎない。

輸入港は5大港中上海が第一位を占め漢口之に次ぎ、天津が第三位にあるが、大連、廣東兩港の取引に至つては極めて少額に止まつてゐる(第6表参照)。

玖瑪に於ける米國の鑛業關係の内鐵鑛業 (經濟資料第15卷第2號) 鐵鑛業は1883年に開拓されたのであるが、1909年に至るまで、玖瑪が世界最大の鐵鑛脈地域であることが充分に知られなかつたのである。少くともミネソタに於けるメサバ鑛山に匹敵する資源を有してゐる。

西班牙アメリカ製鐵會社々長ランド氏 (Charles F. Rand) の測定に依ると1913年の玖瑪の鐵鑛資源は32億2,000萬噸に達する。従つて其他の鐵鑛含有地域は廢棄されてゐる。

僅かにその一部分のみが採掘されてゐるに過ぎない。而してその採掘權は大抵アメリカの製鋼會社の所有である。

玖瑪の鐵鑛業の最大の株主はベスレーム製鋼會社である。(Bethlehem Steel Corporation) 其子會社にスペイン、アメリカ製鐵會社 (The Spanish American Iron Co.) 及びベスレーム鐵鑛會社 (The Bethlehem mines Co.) が1913年に於て17億7,600萬噸を統制してゐる。而して同會社は最近鑛山地方に134,569エーカーの地上權を得、150,986エーカー以上の採掘權を有してゐる。

更に同會社は、1916年から17年にかけて、カンブリア會社 (Combria) 及びミッドバル製鋼會社 (Midvale) を合併して2萬エーカーの土地を手にしたのである。この土地は嘗てブエナ、ヴィスタ (Buena Vista) 製鐵會社の所有せるもので3億噸の鐵鑛を有する。

ユナイテッドステイール會社は3億噸の鐵鑛を有する1萬5,000エーカーの土地をピロート (Piloto) 鐵山會社を経て手に入れたのである。

イースタン製鐵會社は (ペンシルヴェニアのポツビル) 5,000萬噸以上の鐵鑛を有するものと測定されてゐるモア地方の土地1萬2,000エーカーを所有する。

古いニツカーボツカー (Knickerbocker Trust) 信託會社との關係の下に設立された、ガアシタナモ開拓會社は (Guant'anamo Exploration Co.) 1萬8,000エーカーの土地を所有して1913年には3億1,000萬噸を管理してゐる。ベスレーム製鋼會社は、紐育のウイザービー・シャーマン會社 (Wetherbee, Sherman and Co.) の所有する6,000エーカーの鑛區の權利の1/4をその手に收めてゐる。

かくしてアメリカ人は玖瑪の鐵鑛業を絶體的に支配するのである。アメリカの支配を受けないもの

が15%あるも、それ等は問題外である。

鐵道、船渠、除水工事其他鐵鑛業に關する施設に投した費用等は、その鐵鑛區を更に有力な鑛業資本家の經營に移せば直ちに取返し得ることとなる。従つて從來獨立の鑛鐵區を所有して居る玖瑪人其他のものは、合衆國の對岸に特に設立されんとする有力なる獨立の製鐵會社に其の鑛區を賣渡すために今尙所有してゐるのであると云はれてゐる。

玖瑪に於て最初オリエンテ (Oriente) 州の南方海岸で發達した鑛業は瑞典産のものにも劣らぬ良質のニツケル鑛業であつた。この鑛山は今日では全然ベスレーム會社のものとなつて盛大に需要されて居る。その主要鑛區は1906年まで全く價值なきものとされてゐたのであつた。ところがオリエンテ州の北方海岸の灰色の山脈は40—50%の鐵を含んでゐることが發見されたのである。その鐵はペンシルヴェニア鐵道で軌條に造つて試験されたのであつた。

スペイン、アメリカ製鐵會社はその鑛床の開發をなし排水工事を營む爲に5—600萬弗を投じたのである。而も此鑛山は水運の便に恵まれてゐるために大西洋海岸の高級の鐵鑛或は遠くピッツバーグのものとも競争し得るのである。尙カマグエイ州 (Carmagüey) のキューピタス (Cubitas) 山脈にも其他の島にも鐵鑛があるが、交通の便は餘り良くないのである。

ベスレーム其他の製鋼會社が有する鐵鑛は實に莫大なるもので、アメリカの玖瑪に於ける鐵其他の鑛山事業の價值は3,500萬弗と評價されてゐる程である。

ベスレーム會社1916年に3,200萬弗でスペイン、アメリカ製鐵會社を買収した。だが地中にある鐵鑛は市場に於ける鐵と異なることに注意しなければならない。ベスレーム會社の將來250年間の必要に應じ得ると想像される鑛業財産の現存價值はその支配下にある有力なる富の一部に過ぎない。現在に於て有意義にして價值あることは支配統制といふことである。そしてその支配の價值は競争に堪へ得て將來の必要に對する。鐵鑛を保存し得る能力にあるのである。だが投資の現在價值は少くとも玖瑪に關する限りに於いて鑛業企業の有する相對的重要性を公平に表すものである。一方この鐵鑛業は移民労働を大いに使用したので、玖瑪人は彼等の土地の有する鐵富源からは殆んど利益を得なかつたのである。

此外玖瑪に於て開發された唯一の鑛山は、ミナ・ヅ・マダハムブル (Minas de Matahambre) でこれは銅山である。1912年にゴメツ (Gomez) 内閣の工務大臣 (Secretary of Public Works) であつたリウシアノディアズ (Luciano Diaz) 氏に依つて開かれたのである。1921年以來大多數の株をアメリカ金屬會社 (American Metals Company) が所有するに至つた。その鑛石は合衆國精鍊會社 (U.S. Metal Refing Co.) に依つて精鍊されるのである。このマタハムブル鑛山の資本は約1,000萬弗で株式と社債になつてゐる。その産額はアメリカの勢力下に來て以來増加しつつある。

戰時中歐洲大戰オリエンテ州の滿俺鑛は實に多産を爲した。これも亦ベスレーム會社系統の事業である併し現在は活潑なる事業の進行をして居ない。是れは滿俺が平時に何處でも産出し得ると云

ふ事實に基くのかは明白でない。(以下省略)

昭和4年1月中八幡製鐵所銑鋼出產高表 (單位噸)

銑 鐵			鋼 塊			鋼 材		
本 月 生 產 高	前 月 比 較	1 月 以 降 累 計	本 月 生 產 高	前 月 比 較	1 月 以 降 累 計	本 月 生 產 高	前 月 比 較	1 月 以 降 累 計
71,892	-794	71,892	107,455	+431	107,455	82,368	-1,037	82,368

昭和4年1月中外國銑輸入高表 (銑鐵共同組合)

輸出國\輸入港	横 濱	神 戶	大 阪	門 司	其 他	計
印 度	13,514	9,822	14,288	5,302	637	43,563
英 國	512	154	1,024	—	—	1,690
瑞 典	—	821	—	—	—	821
米 國	1,025	8,364	—	209	—	9,598
計	15,051	19,161	15,312	5,511	637	55,672

備考 大藏省主稅局調査の數字は單位擔なるを以て1擔 0.06047 噸の割合にて換算したり

主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産高調表 (單位噸) 商工省鑛山局

種 別	1 月 分			1 月 以 降 累 計		
	昭和4年1月	昭和3年1月	比較増減	昭和4年	昭和3年	比較増減
銑 鐵	130,064	122,146	7,918 6%	130,064	122,146	7,918 6%
普 通 鋼	171,048	136,378	34,670 25%	117,048	136,378	34,670 25%
販 賣 向 壓 延 鋼 片	9,142	5,773	3,369 58%	9,142	5,773	3,369 58%
販 賣 向 シ ー ト バ ー	167	333	△ 166 △ 50%	167	333	△ 166 △ 50%
普 通 鋼 壓 延 鋼 材	137,457	120,427	17,030 14%	137,457	120,427	17,030 14%
内 譯						
鋼 板 { 厚0.7mm以下	11,565	7,032	4,533 64%	11,565	7,032	4,533 64%
其 他	22,203	25,150	△ 2,947 △ 12%	22,203	25,150	△ 2,947 △ 12%
棒 鋼	51,375	37,017	14,358 39%	51,375	37,017	14,358 39%
形 鋼	20,254	18,035	2,219 12%	20,254	18,035	2,219 12%
軌 條	18,565	21,062	△ 2,497 △ 12%	18,565	21,062	△ 2,497 △ 12%
ワ イ ヤ ロ ッ ド	5,116	4,838	278 6%	5,116	4,838	278 6%
鋼 管	4,566	4,520	46 1%	4,566	4,520	46 1%
其 他	3,813	2,773	1,040 38%	3,813	2,773	1,040 38%

△ 印ハ減

銑鐵市場在庫月報表

昭和4年1月31日現在 三菱商事株式會社金屬部

市場	持主別			合計	前月比較
	生産筋	問屋筋	消費筋		
東橫	11,091	7,038	31,396	52,725	+ 10,151
京濱	3,200	—	—		
名古屋	2,902	4,290	2,355	9,547	- 1,148
大神	6,365	20,900	18,200	73,875	- 459
阪戸		50	28,360		
門長	3,627	1,714	7,550	13,141	+ 453
司崎			250		
函館	—	—	—	—	—
室蘭	7,060	—	—	7,060	- 847
釜石	857	—	—	857	+ 517
兼二浦	13,846	—	—	13,846	+ 11,876
大連	37,515	1,480	500	39,495	+ 4,222
其他	504	—	—	504	- 420
合計	86,967	35,472	88,611	211,050	+ 24,345
前月比較	+ 3,008	+ 5,106	+ 16,231	+ 24,345	
前年度同月	100,227	25,958	63,581	189,766	

銑鐵市場在庫品種別月報表

昭和4年1月31日現在 三菱商事株式會社金屬部

品種	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他	合計	前月比較
兼二浦	12,626	3,866	14,245	5,996	13,966	—	227	50,926	+ 4,314
釜石	265	—	700	—	—	—	857	1,822	- 2,698
輪西	5,464	2,020	2,450	370	—	7,060	155	17,519	- 1,815
鞍山	13,790	860	6,090	980	35,227	—	—	56,947	+ 15,906
本溪湖	1,190	1,206	5,370	555	3,868	—	122	12,311	+ 2,787
淺野銑	3,810	—	—	—	—	—	—	3,810	- 54
大暮	—	—	—	200	—	—	—	200	+ 200
Tata	1,030	—	7,800	350	—	—	—	9,180	- 135
Burn	13,830	600	12,550	4,145	110	—	—	31,235	+ 4,380
Bengal	502	690	7,350	300	—	—	—	8,842	+ 772
Cleveland	218	—	100	—	—	—	—	318	+ 133
Hematite	—	—	1,100	—	—	—	—	1,100	+ 700
Swedish	—	—	100	150	—	—	—	250	- 30
Luxembourg	—	—	100	—	—	—	—	100	0
Mysore	—	—	—	—	—	—	—	—	20
米國銑	—	—	14,550	—	—	—	—	14,550	+ 200
大陸銑	—	—	—	80	—	—	—	80	- 20
雜	—	305	1,370	15	170	—	—	1,860	- 275
合計	52,725	9,547	73,875	13,141	53,341	7,060	1,361	211,050	+ 24,345
前月比較	+10,151	-1,148	- 459	+453	+16,098	- 847	+ 97	+24,345	